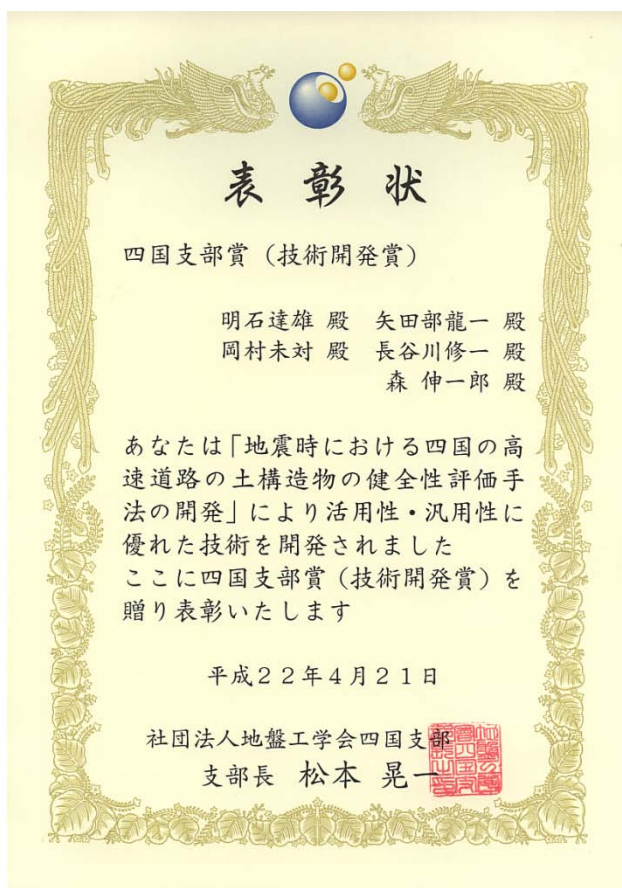


矢田部龍一教授、岡村未対教授、森伸一郎准教授らグループが

地盤工学会四国支部総会で四国支部賞を受賞

平成22年4月21日（水）、地盤工学会四国支部平成22年度支部総会において、矢田部龍一教授、岡村未対教授、森伸一郎准教授らが四国支部賞（技術開発賞）を受賞しました。

受賞業績名は、「地震時における四国の高速道路の土構造物の健全性評価手法の開発」と題し、この賞の授賞理由は、四国では近い将来に南海地震の発生が想定されています。本業績では、四国において想定される南海地震発災時の地震動に対し、軟弱地盤上の盛土や液状化性地盤上の盛土、橋梁基礎、トンネル杭口、地すべり地やのり面等の地震時安定を評価する実務的な方法を検討し、重要点検箇所選定マニュアルとして取りまとめました。また、これを用いてNEXCO四国支社管内全体の高速道路の高速道路に適用し、具体的な対策検討の元となる詳細な被害想定を行いました。ここで開発した耐震性評価技術は、四国の地形や地質の特徴を勘案した精度のよい実務的な方法であることが高く評価され、今回の受賞となりました。



賞状